令和３年度

山梨県立あけぼの支援学校

研究のまとめ

今年度の研究テーマ

「個に応じた自立活動の内容を考える
～教員間の共通理解による指導の充実と事例の活用～」

キーワード：自立活動事例集作成
教員間の共通理解による指導の充実
事例集の今後の活用の仕方

自立活動って
どうやって内
容を考えれば
いいの？

自立活動、
何を参考にし
たらいい？

指導してる内容が
本当に児童生徒に
合っているのかわ
からない

クラス内で
ちゃんと共通
理解できてい
るだろうか？

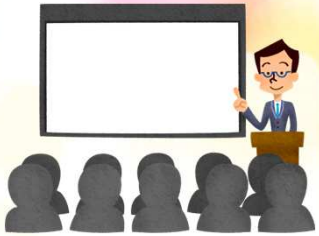
今年度の研究の流れ

研究計画

グループ・学部研究（全13回）・全体研究

日程	内容	備考
５月１０日（月）　第1回全体研究会	今年度の研究について	
①　5月21日（金）※5月19日から変更	学部：進め方の説明と対象児の確認 事例発表対象の決定 グループ：今後の計画（事例の順番）	学部研（リーダー会を兼ねる） グループ研
②　5月26日（水）	事例の共通確認（対象児生の自立活動の目標）	グループ研
③　6月9日（水）	目標から指導内容の検討・決定	グループ研
④　6月25日（金）	目標から指導内容の検討・決定	グループ研
⑤　7月5日（月）	目標から指導内容の検討・決定	グループ研
⑥　7月14日（水）	実践の共通確認と意見交換 事例の活用方法についての意見	グループ研
８月２３日（月）　第2回全体研究会	講師招聘研修会 講師：山梨大学　吉井先生（PM）	
⑦　8月30日（月）	実践の共通確認と意見交換 事例の活用方法についての意見	グループ研
⑧　10月13日（水）	実践の共通確認と意見交換 事例の活用方法についての意見	グループ研
10月中旬～下旬　相互授業参観ウィーク	事例対象児生の授業公開を２週間	全員実施。一人1回は参観。
１１月中　パートリーダー会	まとめについての確認	
⑨　11月29日（月）	実践の共通確認と意見交換 事例の活用方法についての意見	グループ研
⑩　12月20日（月）	事例の完成	グループ研
⑪　1月17日（月）	事例の完成　今年度のまとめ	グループ研
⑫　1月26日（水）	今年度のまとめ	グループ研
⑬　2月2日（水）	今年度のまとめと全体研準備	グループ研
2月14日（月）　第３回全体研究会	今年度のまとめ・事例報告会	２月２２日　指導主事招聘
2月22日（火）　第４回全体研究会		
3月18日（金）　第５回全体研究会	来年度の方向性について	

研究会・研修会



第1回全体研究会	5月10日（月）
第2回全体研究会 （講師招聘研修会　講師：山梨大学　吉井先生）	8月23日（月）
第3回全体研究会 （事例報告会）	2月14日（月）
第4回全体研究会（指導主事招聘予定） （事例報告会・今年度のまとめ）	2月22日（火）
第5回全体研究会（来年度の方向性）	3月18日（金）
県外研修報告会	3月24日（木）

※2年継続しての研究となったため、中間報告会は昨年度の第3回全体研究会に実施。

研究のまとめ

これまでの研究について

・平成30年度後半に自立活動ワーキンググループが立ち上げられたことからスタート。

1年目（令和元年度）

・学校全体で学習会、研修会を行い、自立活動についての基本を確認。

・学習グループごと、児童生徒について、中心的な課題を設定。

・実態把握から中心的な課題を導き出すまでの手順マニュアルを作成。

2年目（令和2年度）

・グループ1事例とし、1年目の取り組みを振り返り、手順を確認しながら中心的な課題を設定。

・設定した中心的な課題から、それを達成するための指導目標、指導内容を設定し、実践。（自立活動の項目の選定、内容の設定にあたっては、さまざまな文献や学習指導要領を活用。）

・指導の参考となるような事例を集めた事例集があると良いという意見を受け、わかりやすい事例集にするための、事例の様式についても検討。

3年目（令和3年度）

・今後の指導に役立てられる事例集を作成することを目指す。

・2年目に検討して決定した事例の様式を使いながら、グループ研究で、一人1事例の実践。

・グループ研の中で、定期的に指導について話し合いを実施し、共通理解と指導の改善。

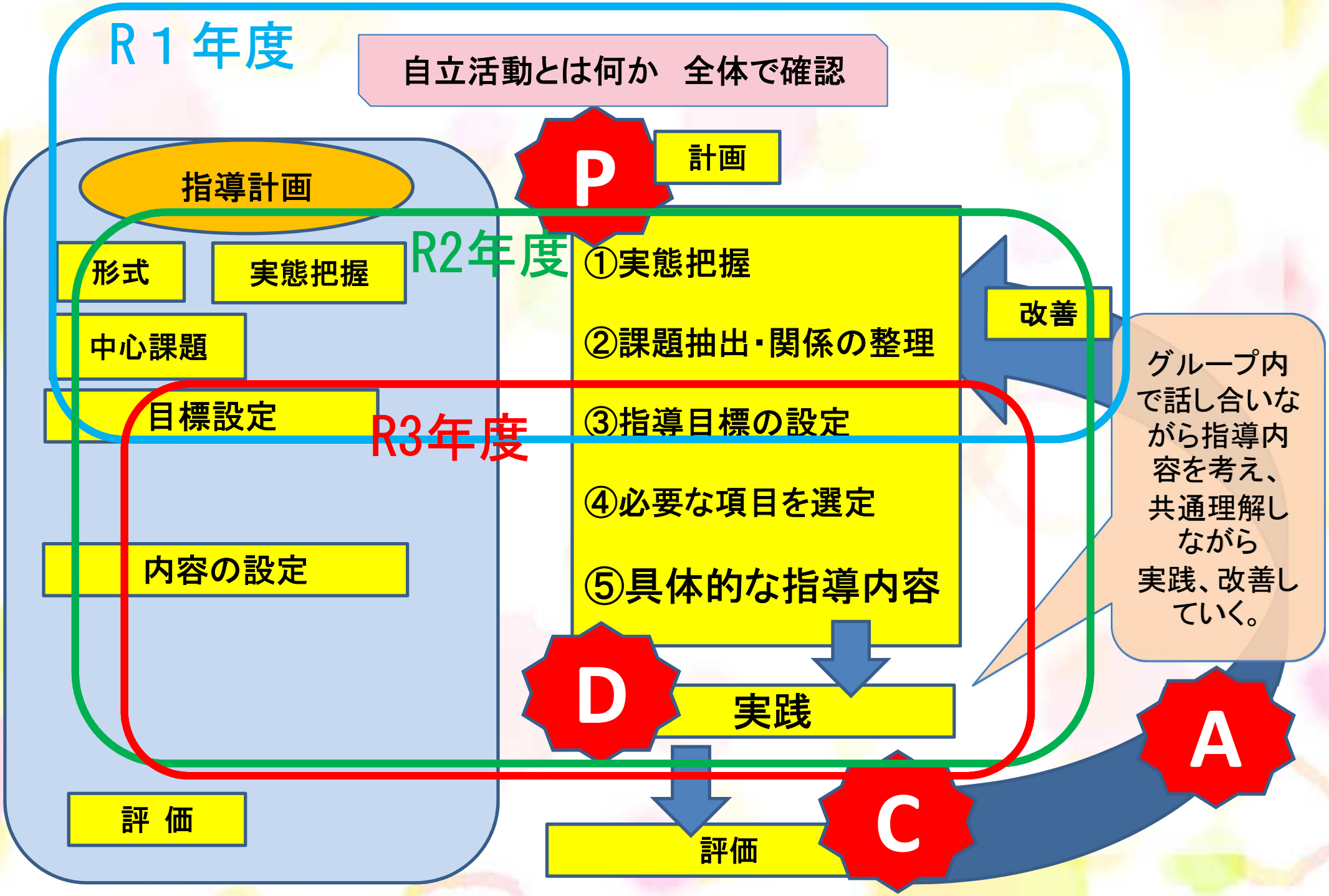
・専門家の活用。

・自立活動の授業の相互授業参観。

・事例集の活用方法の検討。

・全校で多くの事例を作成。

これまでの3年間の研究



今年度の研究の内容

基本一人1事例
グループ内で共通確認しながら
指導内容を考え、実践

自立活動の目標ごとに内容・方法を
検討・実践し、事例集を作成

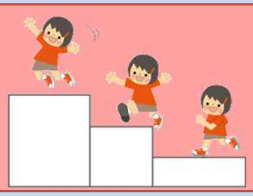
自立活動の目標ごとに学習内容・方法を検討
（個別の指導計画に記載されている目標をもとに考えていく）

※学習指導要領・自立活動学習内容要素表等を参考にしながら話し合う

指導実践・改善

※グループでの話し合い、専門家活用による、教師の共通理解と専門性の向上
※一貫性、系統性のある指導による児童生徒の指導の充実

指導目標の達成へ



事例集の
作成方法の検討
（わかりやすい
検索方法など）

今後の指導の参考となる事例集の作成

研究方法と内容

研究グループ

・学部ごと、学習グループに分かれて実施。

・フリーの教員（教務主任、学部主事、進路指導主事、地域支援主任、初任研担当等）については、授業（可能であれば自立活動の授業）を受け持っている児童生徒が在籍しているグループに所属し、その担当と共同で事例研究を行う。

研究方法と内容

自立活動の内容設定と指導を一人1事例で行う

・個別の指導計画で設定されている指導目標からグループで共通理解を図り、専門家のアドバイスも取り入れながら具体的な指導内容を考えて指導実践を行い、事例を まとめる。

・事例集の活用方法について検討。
（事例集にしたときに活用しやすくわかりやすいまとめ方、索引、分類の方法など）

・今後の自立活動の指導の参考となる事例集の完成

事例集の作成

令和５年度　自立活動指導事例

教育課程：　準ずる　下学年　知的　自立活動		学部：高等部
学年：３年	グループ：①	氏名：KA

実態の捉え

本生徒は肢体不自由、知的障害、病弱、難聴を併せ有している。難聴が原因で、周囲の状況の理解が難しく、理解できている手話も限られているため、やりとりの面で単調になりがちである。周りの友達の様子を見るなど、視覚的な情報を頼りに状況を判断して行動していることが多いため、毎日繰り返している活動は安心して意欽的に取り組めるが、想定外のことがあると、見通しが持てずに不安になってしまう。わかっていない場面でもうなずいてしまい、周りを見て真似て行動しているため、一見すると活動を理解できているように見える。しかし、実際にはなぜそうするのか、どうしてなのかという理由について理解できていないことが多く、質問されても質問の内容自体が理解できていない。それは、難聴をはじめ、さまざまな障害を併せ有する本生徒にとって、わからないことが日常化してしまっていることが原因ではないかと考えられる。そのため、視覚支援を多く取り入れ、理解できる手話、サイン、絵カード等を増やすことで、物事に対する理解を深められるようにし、わかる楽しさを感じられるようにしたい。将来的には、手話や身振り、カードなど、使えるコミュニケーション手段を活用しながら、自分の思いをしっかりと伝えられるようになっていってほしい。

また、呼吸状態の悪化により、以前は可能であった自力移動ができる場面が教室内に限定され、側弯の進行により、姿勢も不安定になってきており、歩こうとしないストレスも見られる。自分の思いを相手にわかるように伝えられる表出手段を身につけることで、生活の質も向上し、情緒の安定にもつながると考える。

中心的な課題

自分の思いが相手にわかるように伝わらない。
わからないことに気づいたり伝えたりすることができない。

長期目標

○自分の生活に必要な手話等の表出手段を身につける。
○生活の中で、さまざまなパターンを受け入れられるようになる。
○呼吸状態の安定と側弯進行予防により、体調を維持する。

年間指導目標

Ⅰ　場面に応じて教師が手話のモデルを見せ、模倣する経験をすることで、「疲れた」「痛い」「苦しい」など、自分の体調について伝えられるようにする。

Ⅱ　簡単なやり取りの中で、おおまかな内容を理解し、質問に手話や身振り、カードなどの選択肢で答えたり、わからないことを伝えたりできるようにする。

Ⅲ　毎日ストレッチや手指を使う活動を行い、筋力を維持し、側弯や手指の拘縮の進行を防ぐ。

Ⅳ　息を強く吹いたり長く吹いたりする呼吸訓練を行い、呼吸状態を安定させる。

令和５年度　自立活動指導事例

○年間指導目標Ⅱ

簡単なやり取りの中で、おおまかな内容を理解し、質問に手話や身振り、カードなどの選択肢で答えたり、わからないことを伝えたりできるようにする。

○指導項目の選定

1　健康の保持	2　心理的な安定	3　人間関係の形成	4　環境の把握	5　身体の動き	6　コミュニケーション
○生活のリズムを整える。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。
○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。
○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。
○[illegible]を高める。		○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。
○[illegible]を高める。			○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。	○[illegible]を高める。

○指導内容

	①	②
人間関係の形成	・自分の見たこと、経験したことを、手話や身振り、コミュニケーションブックなどを使って、教師とやり取りしながら、伝えられる。 ・絵カードや絵本についての質問を聞いたり、質問に合ったものを選んだり、自分で感じたことを話したりする中で、表現を広げ、さまざまな手話や表情も入れることを知る。	・質問に対し、わからないときにうなずくのではなく、「わからない」「疲れた」と伝えられるように、教師が提示するモデルを見せ、模倣させる中で意識を向ける。
心の安定	疲れやわからないなど、行動がパターン化しており、自分の意欲から外れると取り組めることがある。思いを様々な手段で伝えられるようになること、自身の行動や表情も意識できるようになることで、意欲が広がり、新しい活動を増やしていきたい。	わからなくてもうなずいたり、無理をおかしたりして行動してしまうため、わかっていると勘違いされることが多い。しっかりと理解して活動に取り組めるように、わからないことに気づき、それを質問に伝えられるようにしていきたい。
環境	自立活動、特別活動（SHL）、国語 学校生活全般	学校生活全般
身体の動き	・コミュニケーションブックをスタートしたものから、タブレットパソコンに変更し、動いた後のやりとりに入れて継続できるようにした。なくなりやすくなったこと、生活面の動作の変化も活用したことで、以前よりも楽しんで自分から使おうとすることが増えた。 ・コミュニケーションブックは自分のものという意識が強く、教師と共有しながらやり取りすることが出来ず、やり取りを楽しんで使える場面を増やしていきたい。 ・朝の登校の時間に、コミュニケーションブックを使ってやりとりする時間を設けるようにした。家庭から自分で使いたがるようになりつつあることが増えたこと。 ・ストーリーのある絵本の絵カードを見ながら、教師が手話で説明し、順番をバラバラにして、もう一度手話で説明をして、組合せるカードを選ぶようにした。正しいものを選べることが増えてきている。その時に出現した表情についても、表情変化のカードで確認した。	・朝会、学活、国語の手話の学習の中で、本生徒が知っている絵カードと、知らない絵カードを使う場面が多く学習した。知らないものの時、自分でしゃべる時には、知っている手話でどうにか伝えようとしていたが、教師が「わからない」「疲れた」のモデルを見せるようにしたところ、徐々に自分から使えるようになってきた。 ・絵本等の後の教師とのやり取りの中でも「わからない」を使う様子が見られるようになった。 ・「わからない」「疲れた」の使い分けの時、使う場面を教師が明確にして違いがわかるようにしていきたい。 ・答えがあるものを質問されて自分から答えなければならない場面では「わからない」と伝えられることが多いが、教師が聞いているときなどは、わからなくても頻繁にうなずいている様子が見られる。 ・あまり考えずにすぐ「わからない」「疲れた」と伝えてることが増えてきたように感じるので、よく考えることも忘れていない。
備考	本生徒もコミュニケーションブックを活用できるように、継続先と確認していく。	

事例の書き方について

令和３年度　自立活動指導事例

教育課程：　準ずる　下学年　知的　自立主体		学部：
学年：	グループ：	氏名：

実態の捉え

中心的な課題

長期目標

年間指導目標

・文字の大きさは、前ページ8ポイント以上。
・ページ内であれば、多少枠の大きさを変更することは可能。
・1ページ目は、令和3年度の個別の指導計画の内容と一致するようにする。
・研究で検討して変更した場合は、個別の指導計画も同じように変更する。
・氏名はイニシャルで。

事例の書き方について

令和３年度　自立活動指導事例

○年間指導目標Ⅰ

○指導項目の選定

1　健康の保持	2　心理的な安定	3　人間関係の形成	4　環境の把握	5　身体の動き	6　コミュニケーション
□（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	□（1）情緒の安定に関すること	□（1）他者とのかかわりの基礎に関すること	□（1）保有する感覚の活用に関すること	□（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	□（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること
□（2）病気の状態の理解と生活管理に関すること	□（2）状況の理解と受容への対応に関すること	□（2）他者の意図や感情の理解に関すること	□（2）感覚や知覚の特性についての理解と対応に関すること	□（2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	□（2）言語の受容と表出に関すること
□（3）身体各部の状態の理解と処置に関すること	□（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	□（3）自己の理解と行動の調整に関すること	□（3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること	□（3）日常生活に必要な基本動作に関すること	□（3）言語の形成と活用に関すること
□（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		□（4）集団への参加の基礎に関すること	□（4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	□（4）身体の移動能力に関すること	□（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
□（5）病気状態の維持・改善に関すること			□（5）見通しや行動に手順かりとなる概念の形成に関すること	□（5）作業に必要な動作と用具の選択に関すること	□（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること

・　・　・　・　・　・

○指導内容

・

	①	
具体的な指導内容		
設定理由		

指導目標ごとに1ページ作成。

該当する項目にチェックを入れる。（学習指導要領を確認）

指導項目の該当するものと線で結ぶ。
目標ごとの指導内容を記載。
内容が一つの場合は、枠を一つに減らしても良い。
3つ以上ある場合はメインで取り組む2つを記載。

指導方法、使用教材等も含めてどのような内容で指導を行うのかを簡潔に記載。

事例の書き方について

設定理由	
実施場面	
指導の様子	
備考	

指導目標からどのような理由でこの内容を設定したのかを簡潔に記載。

どの授業や場面を中心に指導するかを記載。学校生活全般の場合はそのような記載も可。

まとめて箇条書きでわかりやすく。写真を載せることも可。作成中は経過を必要に応じて記載しておき、最終的には経過に沿って大切な部分をピックアップして記載。

参考となる事項や、今後の課題、引き継ぎたい事項、参考となった資料や文献などを記載。専門家のアドバイスも必要に応じて記載。

教育課程：　準ずる　下学年　知的　自立主体		学部：
学年：	グループ：	氏名：

実態の捉え

中心的な課題

長期目標

年間指導目標

研究推進
文字の大きさは全ページ、８ポイント以上で記入
ページ内であれば、多少枠の大きさを変更することは可能。
１ページ目の内容については、令和３年度の個別の指導計画の内容と一致するようにする。

研究推進
イニシャルで記載。

研究推進
個別の指導計画と同様。
どのような児童生徒なのかわかるように、実態をまとめて記載。
実態から導き出された中心的な課題と指導目標の設定理由も合わせて記載。

研究推進
個別の指導計画と同様。
「～することができない」というような課題的な表記で記載。（「～できる」という表記だと目
「～することができない」というような課題的な表記で記載。（「～できる」という表記だと目
標と混同してしまうため。）必要に応じて複数も可。

研究推進
長期目標を達成するために１年間で取り組みたい目標を記載。（個別の指導計画と同様）

○年間指導目標Ⅰ

Ⅲ．身体の動きで提示されたものを操作することができる。

○指導項目の選定

1　健康の保持	2　心理的な安定	3　人間関係の形成	4　環境の把握	5　身体の動き	6　コミュニケーション
□(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。	□(1)情緒の安定に関すること。	□(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。	□(1)感覚による認識の活用に関すること。	□(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	□(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
□(2)病気の状態の理解と生活管理に関すること。	□(2)状況の理解と変化への対応に関すること。	□(2)他者の意図や感情の理解に関すること。	□(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	□(2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	□(2)言語の受容と表出に関すること。
□(3)身体各部の状態の理解と健康に関すること。	□(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	□(3)自己の理解と行動の調整に関すること。	□(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	□(3)日常生活に必要な基本動作に関すること。	□(3)言語の形成と活用に関すること。
□(4)健康の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	，	□(4)集団への参加の基礎に関すること。	□(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての認識と状況に応じた行動に関すること。	□(4)身体の移動能力に関すること。	□(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
□(5)健康状態の維持・改善に関すること。	，	，	□(5)臨床や行動に手掛かりとなる概念の形成に関すること。	□(5)作業に必要な動作と用具の操作に関すること。	□(5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。

・　・　・　・　・　・

○指導内容

・　・

	①	②
具体的な指導内容		
設定理由		
主な指導場面		
指導の様子		
備考		

研究推進
指導目標ごと１ページ作成。
（指導目標が３つの場合は１枚目と合わせて全部で４ページ、４つの場合は全部で５ページとなる。

研究推進
該当する項目にチェックを入れる。

研究推進
指導項目の該当するものと線で結ぶ。
目標ごとの指導内容を記載。
内容が一つの場合は枠を一つに減らして良い。
三つ以上ある場合は、メインで扱う内容を二つ記載する。

研究推進
指導方法、使用教材等も含めてどのような内容で指導を行うのかを簡潔に記載。

研究推進
指導目標からどのような理由でこの内容を設定したのかを簡潔に記載

研究推進
どの授業や場面（例えば移動の時など）を中心に指導するかを記載。学校生活全般の時は、そのように記載してもよい。

研究推進
まとめて箇条書きでわかりやすく記入。
必要に応じて指導の様子等の写真を載せることも可能。（載せる画像は小さめに。データで残すので、必要な時は画面で大きくして見てもらうようにする。顔がわからないようにモザイク等をかけるようにする。）
作成中は、経過を必要に応じて記録しておき、最終的には経過に沿って大切な部分をピックアップして載せる。

研究推進
参考となる事項や今後の課題や引き継ぎたい事項、参考となった資料や文献等があれば記載。
専門家のアドバイスも必要に応じて記載。

さまざまな視点からの指導内容の検討

- 児童生徒にかかわる
  複数の教師の視点での検討
- 専門家のアドバイスの活用
- 他クラスの教師の
  意見・アドバイスの活用

児童生徒にかかわる
複数の教師の視点での検討

・毎月の研究日をグループ研として実施。

・定期的にグループ内の児童生徒の事例について報告、検討を行い、複数の視点で指導内容や方法について改善。

グループ内の児童生徒について、話し合いながら指導していくことが定着

児童生徒にかかわる教師が共通の課題意識を持って指導

専門家のアドバイスの活用

・PT・OT（校内所属、センター等の医療機関）、心理士、ろうサテライト等の活用

・山梨大学吉井先生の訪問によるアドバイス

・校内の専門性のある教師のアドバイス

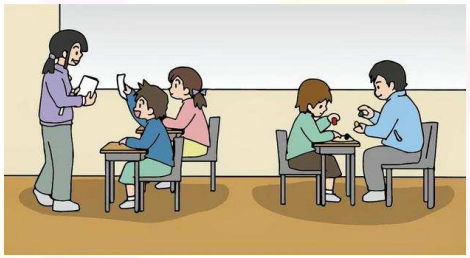
・児童生徒の関係機関の情報など

さまざまな方からのアドバイスも取り入れ、それをグループ内で確認しながら、実践

他クラスの教師の意見・アドバイスの活用

【10月に2週間、自立活動の相互授業参観を実施。】

・期間中、一人1回、事例にあげている自立活動の指導をしている授業を公開。



・1回以上、他クラスの授業を参観。

・参観する前に、対象児童生徒の事例の様式を見て、中心的な課題、目標、指導内容などを確認。

・参観後、参観者は感想・意見・アドバイスなどを用紙に記入して授業者に渡す。

クラス内だけでなく、他クラスの教師からの意見やアドバイスも取り入れられるようにした。

今後の事例集の活用

- データをPDF化し、パスワードをかけ、名前はイニシャルにし、サーバー上で活用できるようにする。

  ※ワード検索で探したい内容を見つけることが可能。

- 紙資料も作成して各学部に配布し、すぐに見られるようにする。

- 目次を2パターン作成し、求めている事例を探しやすいようにする。

  ①学部、教育課程ごとに分類した目次

  ②中心的な課題ごと、自立活動6区分に分類した目次

※使用は校内に限定する。

自立活動のとらえ方について

- 研究を進めていく中で、各学部ごと、教育課程ごとに自立活動のとらえ方について、アンケートを行った。そこで、それぞれに大切にしている部分に違いや変化があることが明確になった。

小学部の自立活動のとらえ方

- 自立活動主体：自己の要求を感情ではなく、表出として相手に伝えられるようにする。「楽しい」と感じられるものを見つけ、増やしていく。この児童のすきなものは、これですと伝えられるようなものを探していく。
- 知的代替　準ずる・下学年：教科指導と名がついても、その裏には自立活動の内容が存在していることが多い。例えば、心理的安定や姿勢保持を図ることで、学習の積み重ねができる。しかし、教育活動全体で行っていくものとしては、特に教科になると教師の意識が薄いように感じる。

中学部の自立活動のとらえ方

- 自立活動主体：健康の保持が土台にあってこそ、学習に取り組むことが出来る。できるようになることもあるが、一方で障がいの進行によりできなくなったこともある。生徒の日々の実態把握を正確にし、指導目標等を振り返りながら学習を設定していくことが大切である。
- 知的代替：各教科の指導の中でも、自立活動のねらいや課題を意識して指導をすることが大切だと感じる。
- 準ずる・下学年：自立活動で取り組むことを日々の生活の中でどれだけ意識的に指導するかが大切だと感じる。卒業後、社会へ出るにあたり自分今何が足りないか、何をする必要があるかを明確にすることで、どのように取り組めば良いのか指針を示してあげるようにしていく。

高等部の自立活動のとらえ方

- 自立活動主体：重度の生徒の場合、学校に来ることで生活リズムが維持されたり、活動が保証されたりすることが大切。そのことで、基本的健康面が保持されることが感じられた。併せて、学校で様々な教師や生徒と関わることでレスポンスが向上し、些細な反応がひろえるようになった。
- 知的代替：卒業後を意識した指導が必要。進路先を具体的にイメージし、卒業後にどんな力が求められるのか、本人が豊かにくらしていくために何が必要かを見据えて指導内容を設定していくことが大切。自立活動が時間割の中で占める割合が低いが、優先的には最も必要と感じる。（特に身体）
- 準ずる・下学年：一般就労、福祉就労、公務員試験など様々な進路希望がある中で、希望先から必要とされる力を身に付けられるように指導している。

各学部ごとの自立活動についてのとらえ方

小学部

児童の実態把握を丁寧に行い、多様な方向からアプローチして、可能性を探る。さまざまなものを試しながら児童の好きなもの、得意なことを見つけていく。

中学部

小学部からの学習を継続して取り組み、指導目標等を振り返りながら学習を設定していく。卒業後をイメージし、徐々に内容を精選していく。

高等部

進路先を具体的にイメージし、求められるもの、本人が豊かに過ごしていくために必要な力は何か、可能なことは何かを見極め、焦点を絞って指導していく。

徐々に内容を絞り、将来を見据えた内容へ

教育課程ごとの自立活動のとらえ方

【自立活動主体】

・健康の保持を土台とし日々の実態把握を正確に行い、好きなもの、楽しいこと、要求を伝える方法を模索していく。指導目標を振り返りながら、学習を設定していく。

【知的代替】

・自立活動のねらいを明確にし、早い段階で進路先での生活を具体的にイメージする。その上で、必要な力を育てていく。時間割の中で自立活動に取り組める時間が少ないが、ねらいや課題を明確にして行っていくことが大切。

【準ずる・下学年】

・社会に出た時に必要とされる力を明確にし、日々の生活の中で指導していく。どのように取り組めば良いのか、具体的な指針を示すことができるようにしていく。

◎小・中学部の段階から、将来を意識した指導を行っていくことが大切。児童生徒が卒業後にどんな生活をするのか早い段階でイメージし、必要な力を育てていく。

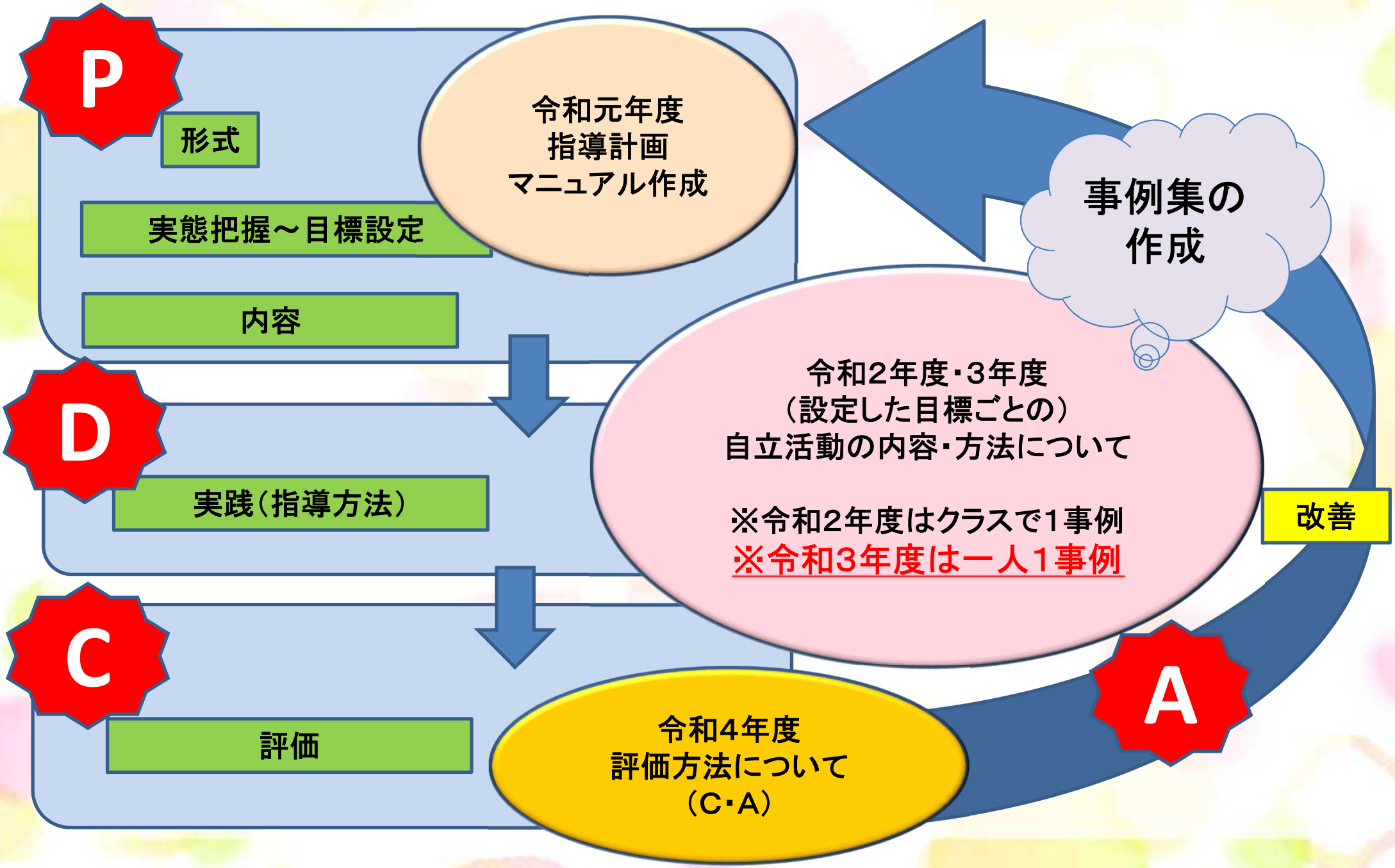
研究の成果

- 児童生徒にかかわるグループ内の教師が、共通の課題意識を持って、指導することができた。
- グループ内の児童生徒について、話し合い、改善しながら指導していくことが定着した。
- さまざまな専門家、他クラスの教師からのアドバイスも取り入れ、それをグループ内で確認しながら、実践することができた。
- 複数年にわたって自立活動の研究を行ったことで、自立活動についての理解が深まり、自立活動の指導に対する意識が高くなった。
- 一人１事例で、今後の自立活動の指導の参考となる、多くの事例を集めることができた。

今後の課題

- 設定した目標や指導内容を、グループ内だけでなく、かかわる教師全てでしっかり共有できるようにしていくこと。
- 小学部から高等部まで、各学部ごとに自立活動の指導において何が必要か、何が求められているか、全体として流れをしっかり確認して指導にあたること。
- 自立活動の指導についての話し合いを今後も定着させていくこと。
- 事例集を、長期的に活用できるようにしていくこと。
- どのように評価を行い、改善していくのかを明確にしていくこと。
- 相互授業参観を、より参観しやすいものにしていくこと。

今後の研究について


P
形式
実態把握～目標設定
内容
令和元年度
指導計画
マニュアル作成
D
実践（指導方法）
C
評価
令和4年度
評価方法について
（C・A）
令和2年度・3年度
（設定した目標ごとの）
自立活動の内容・方法について
※令和2年度はクラスで1事例
※令和3年度は一人1事例
事例集の
作成
改善
A